

2. 事業の概要と成果	
<p>(1) 上位目標の達成度</p>	<p>上位目標である「ミャンマー政府主管農林業研修センターの施設、機材等の整備並びに職員の能力強化と研修内容の改善を図る」の達成に向けては、事業3年次、粗加工所を整備し、更に前年度までに訪日研修を受講した研修センタースタッフを中心に、本事業内の農業、畜産支援の研修内容や指導改善が図られた。</p> <p>「イエサジョ郡内の事業対象地における住民の生計が向上する」の達成に向けては、事業3年次、2年次に引き続き対象地域の住民に対して農業技術研修、畜産飼養支援等を実施し、対象者が知識や技術を学び資機材の支援を受けることで、生計手段が多様化し世帯収入の向上が確認された。</p>
<p>(2) 事業内容</p>	<p><u>1. 農業用水へのアクセス改善を通じた農業生産性の向上</u></p> <p>3年次、2016年7月までに農業灌漑施設のある地域の農家（11村、200世帯）を対象に、研修センターにて農業研修（作物栽培、水管理、営農等）を実施した。研修後、研修した事を実践するため、野菜の種や、有機肥料の材料などを受講者に配布した。</p> <p><u>2. 家畜飼育（養豚、養鶏）支援</u></p> <p>事業対象地42村、600世帯を対象に研修センターにおいて養豚飼養管理に関する研修を実施し、その後、対象者それぞれに子豚1頭と簡易豚舎材料の一部を提供した。また、併せて各村1名ずつ（兼務含めて30村対象）に準獣医ボランティアを配置するため、対象者に対して、飼養研修、病気の予防、治療法等の研修を実施し、その後、準獣医ボランティア宅にはそれぞれ豚用の治療薬の常備を支援した。上記の村を含む事業対象地33村の中で更に貧困度の高い250世帯には、研修センターにおいて現地種鶏の飼養管理に関する研修を実施した後、対象者それぞれに雛15羽並びに簡易鶏舎を提供した。</p> <p>研修センター内に、現地種鶏やその他の粗加工ができる施設を新たに整備した。2年次に改修工事を実施した隣接する食品加工施設と共に、研修センタースタッフ並びに地元住民が連携して衛生管理の行き届いた食品加工の取り組みを進めた。</p> <p><u>3. 評価・まとめワークショップの実施</u></p> <p>1月末、農業支援並びに畜産支援の評価ワークショップを、それぞれ受益者の各村代表、各村長、地元行政関係者等を招聘して研修センターにて実施した。ワークショップ内では、それぞれの事業を通じての成果や課題が参加者間で共有された後、今後の継続的な取り組みに向けて有意義な意見交換が行われた。</p> <p>2月末には、3年間の事業が終了するタイミングで、事業の総合的な評価と意義を共有する事を目的にまとめワークショップを実施した。ワークショップは、政府関係者、国連関係者、村の受益者代表等を招聘し、これまでの全事業の成果と課題が報告され、広く事業の意義が共有される機会となった。</p>

(3) 達成された成果

事業3年次で達成された「期待される成果」毎の成果と指標は以下のとおりである。

1. 農業用水へのアクセス改善を通じた農業生産性の向上

[成果] 農業灌漑施設がある地域の農家（11村、200世帯）を対象に、農業研修を通じて作物栽培、営農、水管理等の新たな知識や技術を指導した。今年は他の農民へ普及する意欲のある農家を対象者として選考しており、研修終了後に改良技術の普及が対象村で自主的に行われた。

[指標] 研修終了後、約1割の農家が実際に改良有機稲作農法を実践し、その他の半数以上の受益者が、新しい作物や野菜の栽培、自然農薬栽培等に実際に取り組むようになった。

2. 家畜飼育（養豚、養鶏）支援

①子豚の配布・飼養支援

[成果] 対象村の再選定をした結果、予定より10村多い42村の600戸を対象に、簡易豚舎の建設と子豚の提供を実施した。その42村の内、複数の村での兼務含め計30村に準獣医ボランティアが配置され同じ村に常備薬も常備された。

[指標] 受益者のサンプリング調査（事業前半の支援者対象）をした結果、支援前に比べて世帯収入が平均35%増加していた。受益者の大半は、支援以降も引き続き自主的に養豚を続ける意欲を示している。対象30村に設置された常備薬は村ごとに自主管理され、今回の対象村内では豚の罹病の際に適切な治療ができるようになり、罹病の損失が軽減された。

②現地種鶏の配布・飼養支援

[成果] 対象村の再選定をした結果、予定より11村多い33村の250戸を対象に、簡易鶏舎の建設と鶏の雛提供を実施した。

[指標] 受益者のサンプリング調査（支援前半の支援者対象）をした結果、支援前に比べて世帯収入が平均45%増加していた。受益者の大半は、引き続き養鶏を続ける意欲を示している。

③養豚・養鶏研修の実施

[成果] 養豚支援の対象者600戸、養鶏支援の対象者250戸、計850戸の受益者が、それぞれの飼養管理に対する研修を受講し、その後実際に養豚と養鶏飼養の実践に取り組んだ。

[指標] 事業終了後も、2年次と3年次の受益者のほぼ全員がそれぞれの飼養を継続している。

④粗加工施設の整備と加工の取り組み

[成果] 研修センター内に衛生管理の行き届いた環境で粗加工が出来る施設が整備された。

[指標]

今回の施設により、食品加工全般の粗加工が衛生管理の行き届いた環境で実施できるようになった。隣接する食品加工施設と共に、加工・販売を担う組織により運営されている。

3. 評価・まとめワークショップの実施

[成果] 評価ワークショップは、農業支援と畜産支援それぞれ関係

	<p>者を招聘して実施した。それぞれの事業ごとの成果と課題が参加者間で共有され、事業継続の意思を持つ受益者が多い事も確認された。また、まとめワークショップでは、この事業の成果や意義が、住民だけに留まらず、広く行政関係者にも共有される機会となった。</p> <p>[指標] 評価ワークショップには、受益者の各村代表、各村長、地元行政関係者、研修センタースタッフ含め310名の関係者が参加した。まとめワークショップには村の受益者代表、ミャンマー政府関係者、国連関係者、研修センタースタッフ含め70名の関係者が参加した。</p>
<p>(4) 持続発展性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業修了後、引き続き研修センターは、研修センター内で生産された生産物収入、研修受け入れ費や現地受託事業等で運営費を賄う予定であるが、ミャンマー政府機関とも協力をしながら必要に応じて団体の資金で運営費を補填する。研修センターに整備された機材も引き続き研修事業の為に利用され、それらの維持管理に関しても研修センターの運営資金で賄う予定である。 ・ 事業で整備した灌漑施設は、それぞれの対象地域ごとに組織されている灌漑水利委員会を中心に、対象住民と協力して水路の維持管理等の管理は行われる。 ・ 農業支援、家畜支援の裨益農民に対しては、事業修了後も研修センターがこれまで同様に継続して関与し、適宜必要な指導並びに支援を継続する。 ・ 今回の対象地域は、自主財源で実施しているマイクロクレジット、WFP（国連食糧計画）等との対象地とも重なっている地域であり、今後も連携を継続しながら、前述の灌漑施設の管理や農業、家畜支援対象者への支援を実施していく。